

学校経営推進費評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立藤井寺支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	視線入力装置の活用の拡大による教育効果の向上 学校自己診断アンケートにおける保護者による肯定的評価の向上
計画名	見る力から伝える力・働く力まで — 一個の発達を支援するための視線入力装置活用の系統化 —

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 【新学習指導要領に基づいた肢体不自由教育の実践力の向上】</p> <p>(3) 児童生徒が意欲的に力を発揮できるよう、教材教具の開発・工夫に努める。また情報機器を活用し、教育効果を高める取組みを進める。</p> <p>(5) 事例研究会、公開授業などを行うとともに校内における研修・研究活動を積極的に行い、高い見識と専門的な知識、豊かな教養の涵養に努める。近肢研・全肢研での発表など本校の取組を広く全国に発信する。</p>
事業目標	<p>近年、手指の操作に困難のある児童生徒の学習や意思伝達的手段として注目を集めている視線入力装置の活用を全校的に進め、児童生徒それぞれの個の実態に合わせた効果的な活用方法を検討し、系統化を行う。</p> <p>重度重複障がいのある児童生徒には見る力や認知能力を伸ばす取組みとスイッチ入力・音声入力や視覚以外でのフィードバックなどの方法との組み合わせの検討を中心に行い、児童生徒の個別の課題やねらいに応じて意思伝達装置としての活用やコンピュータ操作の手法としての活用へつながるように系統立てて取組みを進める。</p>
整備した 設備・物品	<p>視線入力装置 Tobii PC Eye Mini (2)、 視線入力用ソフトウェア (トビー視線ビューワ(2)、センサリーアイ FX(2)、トビー・コミュニケーター(2)、DroptalkWindows 版(2))</p> <p>視線入力用 Windows10 PC (2)、大型ディスプレイ(2)・支持具パソッテル(2)、 だっこスピーカー(2)、スイッチ(発声促進器 L(1)、タッチスイッチラッチ機能付き(1))、 動作解析用ソフトウェア OAK Cam(1)、オープンネット用無線アクセスポイント(8)</p>
取組みの 主担・実施者	<p>主担： 首席・自立活動支援部・情報教育部の教員等を中心に構成したプロジェクトチーム</p> <p>実施者： 全教員の5割程度を予定</p>
本年度の 取組内容	<p>① 各学部における授業等での取組み（自立活動の時間を中心に生徒一人当たり10分から15分ずつ取り組んだ）</p> <p>② 視線入力に関する研修 [校外にも公開5/17, 6/5（校外からの参加者17名）・8/7, 8/21（校外からの参加者16名）]</p> <p>③ 研究大会での発表 [第65回全国肢体不自由教育研究協議会青森大会（11/14）・令和元年度近畿放送・視聴覚教育研究大会（11/22）]</p>

成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校自己診断アンケートにおける保護者による肯定的評価を 80%以上とする ② 視線入力装置の活用に取り組む児童生徒の割合を 50%以上とする ③ 実践事例を 10 例以上集める
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和元年度学校教育自己診断アンケートの教育内容に関する設問に関して、保護者による肯定的評価は全項目で 80%以上の肯定的評価を得ることができた。…………… (○) ② 視線入力装置の活用に取り組む児童生徒の割合は、50%を達成した学部もあるが、達成できなかった学部もあり、学校全体としては目標を達成することはできなかった。しかし、視線入力装置の活用に取り組む児童生徒は着実に増加している。重度重複障がいのある児童生徒では注視や追視といった見る力の向上や外部への意思表示がより明確になるといった事例が見られた。生徒の特性に合わせた指導方法についての理解も深まってきたので、最終年度はさらなる活用の拡大で目標数値の達成をめざす。…………… (○) ③ 重度重複障がいのある児童生徒での活用を中心に目標である 10 例以上の実践事例を収集することができた。実践事例のいくつかは全国大会や近畿大会で発表し、本校での取組みを広めることができた。また、大阪府立支援学校を対象に本校での視線入力研修を公開し、本校での実践を広めるとともに、大阪府立支援学校での視線入力装置活用の充実に寄与することができた。…………… (◎)
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年めの活用においては、視線入力装置の活用が重度重複障がいのある児童生徒での活用は進んだが、知的代替の教育課程の児童生徒や準ずる課程の児童生徒での活用が不十分であったため、3 年めは全ての教育課程の児童生徒での活用のさらなる拡大をめざして、ソフトウェアや教材の紹介や整備を行う。 ・ 活用を進めている児童生徒にはより充実した活動を進めるために、新規ソフトウェアの導入やプログラミング等による児童生徒の実態に合った教材の開発、視線入力装置による外部機器の操作等の取組みを進める。 ・ 視線入力機器の活用を進める教員を増やすために、実際の活用場面の公開や放課後や夏季休業中の校内研修の実施等の取組みを進める。